

“ニッセイの森”の環境貢献度評価（2020年度分）について

本年度も、林野庁より「“ニッセイの森”の環境貢献度」を評価（算出）いただきました。

(1) “ニッセイの森”について

“ニッセイの森”の特徴は、以下の通りです。

(2021年8月現在)

“ニッセイの森”の特徴	
① 全国各地に存在	全国43都道府県に190箇所存在、総面積は約439ha
② 多くの広葉樹を植栽*	植栽樹種60樹種のうち広葉樹は46樹種（本数占有率は全体の37%）
③ 公益性重視	約5割が水源涵養保安林、約3割が自然公園など

*多様な森林づくりを推進するため、適地適木に留意しながら、針葉樹・広葉樹を植樹しています。

(2) “ニッセイの森”環境貢献度（2020年度単年度）について

＜“ニッセイの森”の環境貢献度（2020年度単年度）評価＞

便益	詳細	物量	評価額 (円)	内容説明
環境保全	CO ₂ 固定	1,703 t/年	938.8万	○年間、約1,703 tの二酸化炭素を吸収・固定しております。 ⇒ 約5,331人分の年間排出量に相当します。
水源涵養	流域貯水	241,523 m ³ /年	812.3万	○2リットル・ペットボトル換算で、年間、1億9205万本分の降雨を貯水、その水質を浄化しております。
	水質浄化		2,899.9万	
	洪水防止	10.4627 m ³ /秒	3,152.9万	
山地保全	土砂流出防止	5,639 m ³ /年	2,322.9万	○10tダンプトラック換算で、年間、約1,016台分の土砂流出を防止しております。
合計	—	—	10,126.8万	—

(3) 環境貢献度評価について

林野庁が「法人の森林」について、その環境貢献度を評価したもの（2003年5月制度化）。

森林の有する公益的機能には様々な機能が認められているが、林野庁は環境貢献度として、

①水源涵養機能、②山地保全機能、③環境保全（温暖化防止）機能の3機能について、評価を数値化している。

(注)「法人の森林」制度とは、「企業や団体が社会貢献活動、環境貢献活動の一環として行う森林整備のフィールドとして、国が国有林を分収林（分収造林又は分収育林）という形で提供する」制度のこと。